

チャンスを活かして、キャリアを積み重ねていく

橋本隆子 (千葉商科大学商経学部 准教授)

仕事の内容とやりがい

2009年3月まで(株)リコーのソフトウェア分野の研究員として勤務し、4月より現職となりました。企業の研究員だった時には、ソフトウェアをベースとした新しい事業の創出を目指し、その核となるマルチメディア技術の研究開発を行っていました。現在は大学の准教授として研究と教育に勤んでいます。いずれの仕事も、人の役に立つ喜ばれる技術を考案し、開発していくこと、それをユーザーに使ってもらってフィードバックを得ることが何よりのやりがいです。それに加えて現在は、私の経験を学生さんたちに伝えることで、若い人たちが自らのキャリアを切り拓ききっかけを作れたら…と願っています。

進路決定のきっかけ

高校時は「できるだけ長く働きたい。そのためには専門的な知識を身につけられる理系のほうが有利だろう」と考え、理系を選択しました。高校時代の親友がお父様を早くに亡くしており、「人生何かがあるかわからないので一生働く」という考えの持ち主でした。それに影響を受けたというのも事実です。

お茶の水女子大学理学部化学科では量子化学の研究室に入りました。そこでプログラミングの面白さを知り、ソフトウェアの研究開発に興味を持ったことから、(株)リコーのソフトウェア研究所に入社を決めました。

研究と家庭とのバランス

二人の子供は現在、大学2年生と高校1年生です。子供が小さい時は育児のプライオリティを上げ、残業もほとんどせず効率的に仕事をしよう努めました。ソフトウェアの研究開発という仕事柄、自宅で論文や設計書作成ができたのも非常に助かりました。もちろん家事・育児と仕事の両立には大変な時もありましたが、両親や主人、子供の学校の母親仲間、そして時にはベビーシッターさんの手を借りて、無事に乗り越えることができました。研究という「場」と家庭・育児という「場」の2つを持つことで、さまざまな経験をしました。人生の幅も広がり、いろいろな意味で強くなったように思います。

進路選択に対してのメッセージ

高校卒業時そして大学卒業時と、いずれも比較的軽い気持ちで進路を選択した私でしたが、徐々に仕事の楽しさに目覚め、与えられたチャンスを活かしていくうちに学位も取得し、大学の教員となりました。これまで仕事を続けることができたのも、「理系の研究者」という、時間のやりくりが柔軟にでき、育児休職後にキャリアをリカバリしやすい職種、そして何より大きなやりがいを与えてくれる仕事だったからこそと感じています。皆さんもこれからさまざまなチャンスに恵まれることと思います。ぜひそのチャンスを活かして、自信をもってキャリアを切り拓いていただきたいと思います。



＜橋本隆子 (はしもとたかこ) プロフィール＞

1981年 3月 都立青山高等学校卒
 1985年 3月 お茶の水女子大学理学部化学科 卒業
 同年 4月 株式会社リコー入社 ソフトウェア研究所 勤務
 1991年 8月 第一子出産、育休
 1995年12月 第二子出産、育休
 1997年 4月 株式会社次世代情報放送システム研究所 出向
 2001年12月 株式会社リコー ソフトウェア研究開発本部 復帰
 2005年11月 筑波大学にて学位取得(論文博士(工学))
 2009年 4月 千葉商科大学 商経学部 准教授 着任、現在に至る